

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校 定時制

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1 学ぶこと のよこびの 実感 [主担当] 学力向上G	① 一人一台端末を 活用した授業の 工夫・改善	一人一台端末の活用の工夫によ り、意欲的に学習に取り組めた と感じた生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A (100%) (昨年度 83.3%)	成 果：教員によるICT活用頻度が高まり、生徒の 授業に対する興味関心も同時に高くなっている。 課 題：少人数を生かした活用方法や一人一台端末活 用の有用性を実感できる学習方法を探る必要 がある。 改善策：校内外の研修や活用事例ウェブサイトを参考 に、本校の実態に即した活用方法について研 修会を行う。
	② 授業内容の工夫 を図る校内外の 研修の充実	授業に主体的に取り組んだ生徒 が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (92.9%) (昨年度 83.3%)	成 果：アンケートによる生徒の自己評価の数値とし ては、年々連続して向上が見られる。 課 題：欠席の多い生徒に関しては、学習への意欲を継 続して持てない者もいる。 改善策：そうした生徒を取りこぼさないよう、教科間で 情報共有し、校内のICT研修会を活用するな どして、引き続き生徒の興味を引き出す工夫を 重ねる。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の校内研修を通して、教員の知識技能を高める努力を行っている。とりわけ、少人数教育の利点を生かし、個々の特性を見極めながら興味関心を引き出している点は評価できる。 欠席の多い生徒への配慮を続けてお願いしたい。 			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 校内のICT研修会を十分に活用して、引き続き個別最適な指導を通じて、生徒の興味を引き付ける工夫を行っていく。 不登校傾向にある生徒においては、担任、各学年、教科担任間でその状況や情報を相互に共有し、個別的指導を展開する。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
2 社会人基礎力の向上 〔主担当〕 キャリア教育 G	① 日常的な挨拶・言葉遣い指導	来校者や職員に対し自ら進んで挨拶をしていると答えた生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B (71.4%) (昨年度 70.0%)	成果：普段からの声掛けや学校行事や部活動における指導により、挨拶する生徒が多数を占めている。 課題：自ら声を発すること自体を苦手とする生徒は依然として見られる。 改善策：外部者との交流時、又は登下校時や授業時などあらゆる機会をとらえて教職員自ら積極的に挨拶し、粘り強く指導する。
	② 自己管理意識を高める粘り強い指導	全授業の出席率80%以上の生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	D (46.7%) (昨年度 50.0%)	成果：出席率が昨年度に比べ低下したが、欠席が長期にわたる生徒の数は抑えられている。 課題：一般教科の授業に比べて、学校行事等の授業の出席率が低く、半数近い生徒が80%に達していない。 改善策：欠席の多い生徒には、学校行事の重要性を個人面談等で伝えながら、保護者への連絡を適宜行い、生活面の改善や将来を展望する意識を高めていく。
	③ 自他を認め、チームで活動する機会の充実	行事等を通して他者と協調して活動できたと答えた生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (78.5%) (新規)	成果：総合的な探究の時間や学校行事などを通して、周囲の人たちと協力しながら、自分自身の仕事を成就し、自己肯定感を持つ生徒は徐々に増えてきている。 課題：集団活動を行うことへの抵抗が拭いきれず、依然として、なかなか行事に参加できない生徒が複数名いる。 改善策：生徒のニーズを把握し、興味関心を喚起する行事を設定して参加を促し、他者と関わる機会を段階的に経験させることで自己有用感を高める。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 今後も挨拶等の声掛けを多様な場面を活用して、継続的に学校内で実践してほしい。 長期にわたる欠席者の数がほとんど見られない点は評価できる。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 日常の学校生活やボランティア活動、学校行事や対外試合などを通して、挨拶を奨励し、生徒のコミュニケーション能力を高めるよう努める。 前期の欠席率が後期よりも高い傾向が見られるので、生徒のニーズを把握し、興味関心を喚起する行事を設定して参加を促す。 		
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）

3	地域愛の育成	①	ふるさと学習に係る行事の精選とニーズの把握	体験学習において興味を持って取り組むことができた活動が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C (68.0%) (昨年度 85.7%)	成 果：調理実習など校内で取り組んでいる行事に関しては参加率がかなり高い。 課 題：千枚田の田植え・稲刈りボランティアや市内一斉清掃活動など学校外での活動に関しては参加率がかなり低い。 改善策：事前学習を積極的に行い、参加を呼びかけていきたい。
	[主担当] 地域理解G	②	協働的に活動する場面設定の充実	体験学習において協働的に取り組むことができたと感じた生徒が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (94.2%) (昨年度 85.7%)	成 果：参加していた生徒のほとんどが行事の意義を理解し、積極的に参加出来るようになった。 課 題：集団で行動することが苦手な生徒が一定数おり、協働的な活動に消極的である。 改善策：教職員や外部の多様な人々との関わりを持ちながら、時間をかけてゆっくりと地道に指導していく。
4	多忙化改善	①	業務の見直し・平準化による多忙感の解消	時間外勤務について、月平均で以下の時間を超える教員がいない A：15時間 B：20時間 C：25時間 D：30時間	B (83.3%) (新規)	成 果：15時間を超えない教員の割合は6名中5名であった。超えた1名に関しては宿泊を伴う出張を除けば、15時間以内であった。 課 題：部活動の練習会や全国大会における連泊を伴う出張においては、長時間労働になりやすい。 改善策：教職員一人ひとりの心身の状況や生活状況に応じて、教職員に業務が逼迫しない時期に定時退校等を奨励する。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> ・校外型体験学習の参加率は低いですが、校内で取り組む里山調理実習等の参加率の高さは評価できる。 ・適切な健康管理のためにも、15時間を超えないように、今後も業務の効率化を推し進めてほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			<ul style="list-style-type: none"> ・校外で開催する体験学習やボランティアにおいては、その重要性をしっかりと認識できるような事前学習を積極的に行う。 ・全国大会や北信越大会などの引率業務で時間外勤務が多くみられた。一定数の教諭に業務が偏らないよう、複数体制で業務形態の平準化を図りたい。 			